

受賞者最年少技術者に聞く

優良技術者表彰 受賞者 Interview



責任ある立場こそが自分を変えた

今回、内室さんが最年少優良技術者として表彰された工事は、実は初めて現場代理人を務めた現場であったという。緊張と不安に苛まれながら過ごした日々。自分なりに精一杯努力したつもりでも、それが人様から評価されるだけの仕事になっているのだろうか？ 今回の受賞は、内室さんが抱えていた不安を見事に吹きとばしてくれた。

「もちろん、今回の件は自分だけの力で得られたものではありませんが、それでも自分の仕事が評価してもらえたかと思うと素直に嬉しい。何より今後の仕事に少し自信が持てそうですし……」

現場代理人として評価された成果は、無論これだけではない。代理人になる前にはどうしても抜け切れなかった仕事への甘えが、責任ある立場を経験した後では、自分でも驚くほどなくなったという。「下の立場というのは無意識のうちにも“最後は上が何とかしてくれる”と思いがちですが、代理人になるとそうはいかない。不思議なもので、そういった立場を経験すると、自然と正面から仕事に向き合えるようになったのです」

後輩へのメッセージを求めると、「まだまだ未熟なのでこちらがアドバイスをほしいくらい」との答えが返ってきた。でも、これだけの心構えを持った若手だ。言葉を口にしなくても、その背中を目標とする後輩はきっと少なくないに違いない。

今のような時代には珍しい、背中で物語る純な若手技術者。それが内室さんだ。

内室 伸之さん(26歳)

三立建設株式会社
工事営業部



会社の入り口でポーズを決めていただいた。
なかなかのイケメン。

2003(平成15)年に三立建設株式会社に入社。2005(平成17)年に初めて現場代理人となった「北区志茂2丁目、赤羽2丁目付近再構築その2工事」(東京都下水道局発注)においてその実績が評価され、平成19年度優良技術者表彰を受賞。保有資格は2級土木施工管理技士。